

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
図から数を読み取り、正しく式を立てる力(数学的な考え方)	8.0%
図形の変形(数学的な考え方)	18.7%
小数のわり算の除数の大きさ(知識・理解)	56.0%
小数のたし算(知識・理解)	72.0%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
意図や背景を正しく読み取り、数学的に処理する力(数学的な考え方)	8.6%
整理されたものから正しく読み取る力(数学的な考え方)	38.7%
小数のかけ算(技能)	24%
複合図形の求め方(技能)	44.1%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 算数が「とても好き」と回答した児童の割合が全国、東京都の平均値よりも大幅に高いことは、日常の算数学習の意欲の高さに表れている。 活用力を問う問題の正答率は比較的高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を正確に把握し、見通しをもち、解決に向かって工夫しながら、粘り強く取り組む力と態度。 形式的な処理や技能を高めるとともに、問題場面をきちんと読み取り、関係を明らかにしながら分かりやすく表現する力。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

東京ベーシックドリルの継続的な取り組みなどにより、基礎・基本となる計算技能や処理に関しては、概ね定着してきている。一方で、複雑な数値や工夫が問われる計算問題となると、正答率が低下している。教科書にある問題の解法を教師がなぞるような形で授業を進めるのではなく、児童自身の力で取り組む態度を高めるような展開をより一層進めていく必要がある。具体的には、児童自身の説明、表現活動を大切にしたい授業展開、適切なタイミングでの教師の助言や励まし、学年の発達段階や学習内容の系統性を踏まえた指導の充実を図っていく。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	意欲を持って学習に取り組むが、20までの数の合成分解を苦手とする児童がいる。問題文では、分かっていること・問われていることをはっきりさせて立式することを苦手とする児童が多い。	繰り返し練習をすることで、数の構成を捉えられるようにする。また、式を立てる際、計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表わす活動を重点的に行うことで、児童の立式する力を伸ばしていく。
2年生	問題文をしっかりと読み取り、解決に導くための見通す力に課題がある。時計の読み方、ひっ算のやり方、かけ算九九の暗唱といった技能や習熟指導に偏ることが多くなってしまふ。	問題把握の際、場面イメージを想起させるような話し合いや解決方法の見通しをはっきりさせるような話し合いを取り入れる。考える過程を大切にしたい授業作りをするべく、児童の考えを生かしながら、意味を掴ませ、活用する場を設定する。
3年生	かけ算、たし算、ひき算の計算技能は習熟練習を通して高まっている。一方で、自分の考えを相手に伝えたり、分かりやすく表現したりすることに課題がある。	児童一人一人が考えをもち、説明しようとする姿を継続的に賞賛し、自信を高めていく。友達の考えや説明方法の多様さや工夫のよさに気付かせながら、解決意欲を高めていく。「子供と創る授業」指導法の共通理解、実践に取り組む。
4年生	小数の意味理解と計算技能、概数の表し方に課題がある。習熟度に差が見られる。また、工夫して計算することや、図や文章の中から必要なことを読み取る力に課題がある。	小数や分数を数直線上で表したり位取り記数表などを活用し、大小関係を見比べていく活動などを通して、数の認識を高める。概数として表すとき、四捨五入する時の位の見方やその方法などを日常の生活場面から意識し取り入れていく。
5年生	既習事項の習得に偏りがあり、特に比較・関連付けて読み取る力や意図や背景、理由を理解・解釈推論して解決する力に課題がある。	問題を読んで、場面や問われている場面内容をきちんと踏まえ、数の一つ一つがもつ意味と立式を関連づけながら、解決する方法を考えさせる指導を行う。
6年生	小数の意味理解と計算技能。位同士の関係性や性質を活用した考え方。除数と被除数と商の関係をきちんと見取り、数を分かりやすく置き換えて考えたり、理想化、一般化したりすることに課題がある。	位取り記数表を活用して、除数、被除数、商の関係を図や式、言葉を関係させながら表現、説明する活動をこれまで以上に取り入れていく。位同士をきちんと揃えて書く習慣を身に付けさせるように指導を徹底する。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
基礎、基本の充実を図るべく取り組んでいる、練習問題や東京ベーシックドリル等の成果が表れてきている。「習熟度別算数」における、児童一人一人に応じた手立ての充実により、学習意欲が向上している。	既習を生かして問題解決に取り組む態度。自分の考えを多様な方法で表現したり、発表したりする力。配慮が必要な児童への学習意欲を高め、持続して取り組む力。

●学校全体で取り組む内容

基礎・基本の充実を図る手立てとして、東京ベーシックドリルなどの活用を継続し、その推移を的確に見取り、実態に応じて学習内容の精選や重点化を図っていく。また、思考・表現活動を大切に、児童自らが意欲的に学習に取り組む態度を高めるべく、問題解決型学習の授業の更なる工夫と充実を図る。思考や説明力を高めるべく、数図、数の線、テープ図、線分図、数直線などを発達段階に応じて系統的に取り組んでいく。それに併せて、指導者間での共通認識を高める。
--

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	計算の技能は定着してきたが、文章問題など数学的思考の問題については、理解が不十分な面がある。	半具体物や図、絵を用いて問題を解決していけるよう、授業を展開していく。式を数図で表したり、読んだりする活動を大切に。友達同士で考えを伝え合う活動を数多く取り入れる。
2年生	計算技能はおおむね定着しているが、日常で扱う機会が少なくなっている量測分野での得意・不得意が目立っている。	操作や測定活動を通して、量感覚が養われるような機会を多く設ける。量を数として見ていく手立てとして、テープ図や数の線に表現したり、読む活動を継続的に取り組んでいく。
3年生	知識・理解面や、計算の技能等は概ね定着している半面、数学的思考の正答率が他の観点の半数程度で課題である。	問題解決学習を通して自分の考えや思いを自分なりに書いたり伝えたりする能力の素地を培う。そのために、モデルを示して考えさせたり、自分の考えを説明したりする活動を充実させる。
4年生	児童によって理解の差が大きく、内容の習得が難しい児童もいる。たし算、ひき算、かけ算九九など基本的内容の理解が不十分で、不安を抱えながら取り組んでいる児童もいる。	習熟度別編成で進める中で、実態に応じた問題提示や進め方を弾力的に工夫する。説明活動を大切にしながらも、習熟や活用の時間をきちんと確保したり、具体性をもったまとめ方や要点を掴ませる授業展開を図る。
5年生	教科書で取り扱う問題については、図、式、言葉などを関係付けながら説明する力は高まってきている。一方で、発展・活用、必要な情報を取り出し、整理する力に大きな課題がある。	”確認型”の授業ではなく、”児童自身の解決力”を高めるような展開への転換を図っていく。解決方法の確認だけではなく、工夫やよさなどを味あわせるような問題解決学習が展開されるよう、教師間で共通認識を進めていく。
6年生	問題解決学習の流れや取り組み方には慣れ、スムーズに進めることができているが、問題を自分に引き付けて捉えたり、より分かりやすく工夫して考えたりする態度や姿勢を高めていくことが課題である。	学習意欲の高さを生かすためにも、子供がより主体的に学習に向き合っていくような授業構成、児童の気づきや発想を引き出せるようなアプローチや発問の工夫、帰納、演繹、活用を授業の中に取り入れる。